

子どもも大人も共に学び・共に育つ環境づくり

《住民大会これまでの経過》

- ① ～ H16 これまでに 22 回の飯山市青少年健全育成住民大会を開催。市民会館を会場として、表彰式・各種団体の実践発表・講演会が中心の内容。(座型の住民大会)
- ② H16 常任理事会 大会が打ち上げ花火、お祭りの。成果が疑問。見直す必要がある。
- ③ H17 『いいやま共育フェスティバル 2006 ～よりよい教育環境を求めて～』
表彰式・シンポジウム
- ④ H17 常任理事会 参加者の高齢化。内容のパターン化。地域密着に。体験型の大会に。
- ⑤ H18 ～ この年より、体験型の住民大会として実施。
『いいやま共育フェスティバル 20〇〇 ～わがまち みんなで クリーン作戦～』
- ⑥ H20 理事会 活動内容について検討。
- ⑦ H21 理事会 内容の幅を広げる (ボランティア活動)。テーマ検討。
- ⑧ H22 理事会 テーマ「わがまち だいすき みんなで ボランティア」(5年間)
- ⑨ H26 理事会 テーマ「我がふるさと みんななかよく 助け合い」に決定

Q 1 体験型の住民大会にしたのは、なぜでしょうか。

A 自分たちの住む地域を、大人と子どもがいっしょになって汗を流し、よりよい環境づくりを目指します。

自分の住んでいる地域のことをよく知るチャンスです。役立つ自分意識をもつチャンスです。地域で育てられていることを実感するチャンスです。共に活動することで地域の絆を深めるとともに、「地域に生かされている自分」「地域に役立つ自分」を意識する体験の場でもあります。

このように、子どもから大人まで住民総ぐるみの活動となることで、地域の活性化・まちづくりへとつながります。ぜひ続けたい活動であり、継続が大きな力となります。

Q 2 青少年育成市民会議はどんな組織でしょうか。

A 飯山市における青少年育成の住民活動を総合的に推進します。構成団体は約 40 あり、飯山市長を会長とする理事会で活動を検討し、各団体が力を合わせて青少年育成に取り組みます。この「いいやま共育フェスティバル」の企画推進についても理事会で審議します。

Q 3 「共育フェスティバル」で活動の中心となる団体はどこでしょうか。

A 青少年と関わりの深い『子ども会育成連絡協議会』が中心となって、区長会協議会・補導員会・PTA・学校などすべての市民会議構成団体が協力し、大人と子どもがいっしょになって地域のために汗を流します。推進にあたっては市内各地区の子ども会育成会長が集まった会議で具体的な運営方法を話し合い、各集落(字町)会長に伝え、地域住民に広く呼びかけ実施します。

Q 4 どんなボランティア活動が考えられるでしょうか。

- A 子どもたちと相談し、どんなボランティア活動ができそうか知恵を出し合います。例えば、「福祉施設との交流」「公会堂・公園などの公共施設の掃除」「花壇の草取り」「ゴミ拾い」「落書き消し」「ひとり暮らしの老人と交流」「カーブミラー・ガードレールの汚れ落とし」などが考えられます。

Q 5 「基準日」はなぜ設けるのでしょうか。

- A 7月の第3土曜日を基準日としています。それは、①7月は「青少年健全育成強調月間」である。②これまでの住民大会は、強調月間にあわせて7月に実施してきた。③7月の第3土曜日は、小・中・高校生が比較的参加しやすい日である。との理由から基準日を設け、その基準日の前後1ヶ月間で実施するようお願いしています。なお、基準日の翌日が「河川清掃日」で同じような活動が連続するため、あわせて実施することも考えられます。

Q 6 どんな活動にしていってらよいでしょうか。

- A 体験型住民大会の「ねらい」や「活動」が広く住民に理解されるまでは、市全体でフェスティバル（体験型の祭典的な企画）として取り組みますが、将来的には地区内の大人と子どもがいっしょになって主体的な住民運動として発展することを考えています。

Q 7 集落（字町）の各育成会長はどんな心がまえで、なにをしたらよいでしょうか。

- A 計画の段階から子どもたちの考えを聞くなど、子どもたちが活動の主役となるよう取り組みます。それには、子どもたち（子ども会役員）との話し合いを大切に考え、早くから計画的に進めます。また、地区内住民への参加の呼びかけ・区長さんやPTA、公民館などへの協力お願い、地区事務局と連携するなど活動を推進します。

Q 8 市民会議を構成する団体はなにをしたらよいでしょうか。

- A 活動のねらいを理解し、団体としてまとまった活動が可能ならば積極的に取り組みます。無理な場合には、住民と共に活動に参加し、交流を深めます。

Q 9 参加者へ飲み物を出すのはなぜでしょうか。

- A 暑い時期でもあり、共に汗を流したあとの冷たい飲み物は格別です。飲みながら疲れを癒すと共に達成感を味わったり、語り合うことをしたりして住民同士の触れ合いを深めます。「飲み物」は地域住民の「つながり」を深めるきっかけです。